



【ハルビン(中国黒竜江省)30日 共同】日中戦争時にペストなどの細菌兵器開発のため、中国人捕虜らの人体実験を繰り返した中国ハルビン市郊外の旧関東軍防疫給水部(七三一部隊)本部の跡地。写真上で五月初めから、国連教育科学文化機関(ユネスコ)の世界遺産登録を目指す保護、復元工事が本格的に始まった。

約三千人を人体実験で殺害し、世界の戦争史上、最大の細菌実験施設とされる同部隊の戦争犯罪を世界の

人々に知らせ、中国の愛国教育にも役立てることが狙い。

二階建てれんが造りの本部棟は中学、高校の校舎として使われているが、学校を移転する計画という。

地元の柳昌黎・平房区長は三十日、

代表団(団長・栗原透元高知県議)を前に「ナチス・ドイツの強制収容所、アウシュビッツ(ポーランド)や広島の前爆ドームに続く戦争遺跡の世界遺産化に向け努力したい」と述べ、意欲をみせた。

# 731部隊跡 世界遺産に

中国で訪れた支援団体の